

第二の人生のスタートラインへ

～プロボクサーからの転身～

臼井 祐介さん (経済学部〈現・経済経営学部〉2007年度卒業)

ボクシングの魅力、エピソード

私は中学生の頃からボクシングジムに通い始め、18歳の時にプロのライセンスを取得しました。週6日はジムに通い、サンドバッグを打ったり、スパーリングなどをして毎日2～3時間の練習をこなし、週1日休むというサイクルで活動していました。

試合が決まればそれに向けて1ヵ月で5～6キロの減量をして試合に臨みました。減量は苦しかったことの一つでもあります。減量中は食事量や水分量も制限しなければならず、1日に何度も体重計で体重を確認するという生活で、普段は一回の練習で2キロ前後落ちる体重が試合間近になると数百グラムしか落ちなくなるということもありました。

試合が近づくと感覚が研ぎ澄まされてきた感じもあります。ボクシングの試合は、自分も相手も試合に向け全力で取り組んできた者同士が、対一の真剣勝負をします。そのことで観戦している人たちの声援にも力が入るのだと思います。

私は、ボクシングを通じて様々な経験をし、駿河台大学の方や同窓会の方をはじめ、たくさんの人たちと出会うことが出来ましたし、多くの人たちに応援していただきました。

10年間プロとして活動し、最後はケガで現役を退きました。最終的には25戦12勝5KO11敗2分と25戦も経験でき



沖縄旅行にて(右が臼井さん)

たことを今後の人生に生かしていきたいと思っています。

大学時代のこと

ジムに通っていたのでサークル活動などは出来ませんでした。通学やジムやアルバイトとあまり自由になる時間はありませんでした。大学時代の思い出はやはり友達と毎日学食に行ったり、一緒に課題を進めたり、講義が休講になった時に遊びに行ったりと楽しい思い出ばかりです。

卒業後は、皆社会人になり忙しいですが、数か月に一度は今でも食事をしたりしますし、会えば学生時代と変わらず、いろいろ話ができる友人達です。自分にとって、駿河台大学は大切な仲間に出会えた最高の場所だと思います。

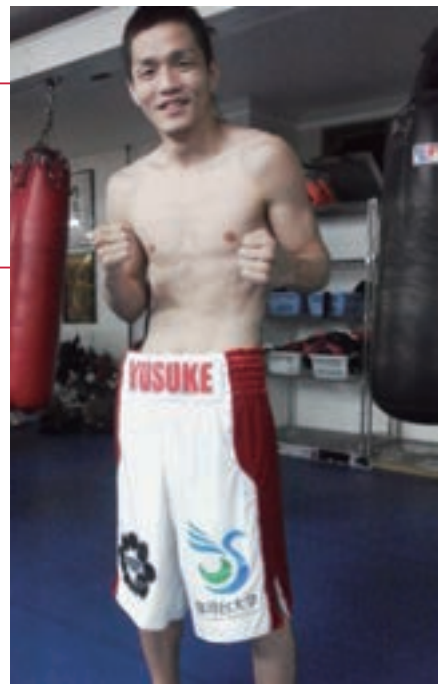


大学の卒業式にて(一番左が臼井さん)

後輩に伝えたいこと

学生の皆さんには、学業やアルバイトや遊び、サークルなど今にしか出来ないことに精一杯取り組んで、今を満喫して欲しいと思います。さらに大学卒業後は何をしたいのか自分はどんなことに興味があるのかをよく考えて欲しいと思います。

私は学生の頃、まずはボクシングを続けることを第一に考え、そのあと自分の将来については漠然としか考えていませんでした。ですが、私は車の運転が好きだったので在学中に運転に関する免許を多く取得しました。その時取得した免許を生かして、次の仕事に就くことが出来ました。



これからのこと

学生時代に取得した資格を生かして、横浜市交通局にバスの乗務員として就職することが出来ました。いままでボクシングに注いできたやる気と情熱を、バスの乗務員としての仕事に注いでいき、第二の人生をスタートさせていきたいです。いままでは、周りの人に支えていただいたので、これからは少しでも地域に貢献し、周りの方々に恩返しをしていきたいと思っています。

最後になりますが、駿河台大学や同窓会をはじめ応援していただいた皆様には本当に力をいただきました。ここまでボクシングを続けてこられたのは自分一人の力ではなく皆様のおかげであると思います。本当にありがとうございました。



試合中の臼井さん(右)

Profile

■ うすいゆうすけ

東京都出身。東京都立拝島高校卒業後、2004年経済学部〈現・経済経営学部〉に入学。高校3年時にデビューし、立川市の石川ボクシングジムに所属。本学在学中もプロボクサーとして活躍。日本ランキング入りを目指して闘い続け、最終戦績は25戦12勝5KO11敗2分。